



文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「のだ／んだ」(1)

今回と次回は「んです／んだ」、「のです／のだ」について考えます。次の(1)の会話を見てください。

- (1) A: どうして遅れたんですか。
B: ごめんなさい。バスが来なかったんです。



(1) には「んです」が2つ出てきています。「んです」の代わりに「のです」、「んだ」の代わりに「のだ」を使うことができますが、「のです／のだ」のほうが

「んです／んだ」よりフォーマルで、硬い感じがします。「のだ／んだ」の基本的な意味は「事情説明」です。「事情」というのは、「理由」や「わけ」という意味で、「事情説明」というのは、ある事柄に対して「理由」や「わけ」を説明するということです。

「事情説明」は話し手が事情を説明する場合と、事情説明を求める(事情を聞く)場合があります。

(1) では、Aが「んです」を使ってBに説明を求めているのに対し、Bは遅れた理由を説明するために、「バスが来なかった」の後ろに「んです」を付けています。

「理由」や「わけ」を説明することは、場合によっては、弁解がましい(=責任の言い訳をする)、主張が強すぎる、押し付けがましく(=一方的に自分の意見を押し付ける)聞こえることがあります。

もう一度(1)の会話を見てください。Aが遅れた事情を聞いているのに対して、Bは「ごめんなさい」と謝って、次に遅れた事情を説明しています。(1)では「ごめんなさい」と謝っているの、主張が強すぎるといった感じはしませんが、次のように「んです」が重なると、弁解がましく、また、押し付けがましくなります。

- (2) A: どうして遅れたんですか。
B: バスが来なかったんです。あのバスはいつも遅れるんです。だから、仕方がないんです。

「のだ／んだ」を使った質問文も、状況によって、また、イントネーションを強くしたりすると、意味合いが変化していきます。次の(3)1は挨拶代わりに



ように、軽く聞いているだけです、(3)2,3となるにしたがって、説明を求める度合いが強くなります。

- (3) 1. A: こんにちは。いいお天気ですね。何をしていますか。
B: いい天気だから、チューリップの球根を植えようと思って。
A: そうですか。いいですね。
2. A: Bさん、何をしていますか。
B: いい天気だから、チューリップの球根を植えようと思って。
A: ああ、そうでしたか。何をしたらいいのかと思っていました。
3. A: Bさん、何をしていますか。
B: いい天気だから、チューリップの球根を植えようと思って。
A: 今球根など植えなくてもいいですよ。ちょっと早すぎますよ。

(3)2では(3)1より答えを求める気持ちが強く、(3)3では、「問いただし」(=厳しく追及する)や「とがめ」(=注意する、非難する)の気持ちが強くなっています。

「のだ／んだ」を「いつ使うのか」は日本語を勉強する人には難しい問題ですが、同時に「いつ使わないか」も難しい問題です。というのは、日本語学習者が作る文を見ていると、「のだ／んだ」の脱落(使えない、落ちてしまう)が多いと同時に、それ以上に、「のだ／んだ」の多用(使いすぎ)が多いからです。

では、少し練習をしてみましょう。次の「のだ／んだ」を使ったaと、使っていないbと、どちらがより自然か考えてください。

【問題1】

1. <自己紹介>

ボン: ポンです。タイのバンコクから(a.来ました

b.来たんです)。今、日本語学校で日本語を(a.勉強

しています b.勉強しているんです)。

2. 〈日本語コースが終わって、修了式のスピーチで〉

ホセ：最後に、私は先生方に感謝 (a.したいです

b.したいのです)。先生方はとても親切で、(a.やさしかったです b.やさしかったのです)。

3. 〈あなたはビルの8階にいます。窓から下を見ると、

傘を差して歩いている人が見えます。それを見て〉

あなた：あ、雨が (a.降っている b.降っているんだ)。

4. 〈九州のお土産を持って先輩を訪ねました。〉

私：これ九州のお土産です。

先輩：そうですか。九州に (a.行きました b.行ったのです) ね。

5. 〈キムさんが出かけるのを見て、リーさんは〉

リー：キムさん、こんな時間にどこへ (a.行きます

b.行くんです) か。もう遅いですよ。

答えは1-a、2-a、3-b、4-b、5-bです。

1は自己紹介の場面ですが、相手にはじめて会うわけですから、「事情説明」はありません。紹介の場面では「のだ／んだ」が使われないのが普通です。2も「事情説明」というより、単に感謝を述べるわけですから、「のだ／んだ」は不要です。「のだ／んだ」を付けると、感情が入りすぎる言い方になります。3は傘を差している人を見ての発話ですから、「事情説明」になります。もし、窓の外を見て雨に気がついた場合は、事情はないわけですから、単に「あ、雨が降っている。」となります。4は、九州のお土産を目の前にしての会話ですから、九州へ行った根拠 (事情) があるということで、「のだ／んだ」が必要です。5は「こんな時間に」という表現があることからわかるように、「問いただし・とがめ」になるので、「のだ／んだ」が必要です。

「のだ／んだ」は「事情説明」を表すということから、「納得」の意味用法も持ちます。

(4) 道が込んでいる。きっと事故があったのだ。

(4) では道が込んでいる事情を推量して、理解し、納得していると考えられます。

次の (5) も「納得」を表しています。

(5) 変な男がうろろうしていた。だから、うちの犬が吠えたのだ。

(5) のような「納得」の文で「推量」の意味合いが強くなると、「のだ／んだ」ではなく「のだらう／んだらう」「のかもしれない」が用いられます。「のかもしれない」の前には通常、「ん」ではなく「の」が来ます。

(6) 変な男がうろろうしていた。だから、うちの犬が吠えたのだらう／吠えたのかもしれない。

(7) 山田さんがまだ来ない。きのう用事があると言っていたが、やっぱり来られないんだらう／来られないのかもしれない。

「だらう」「かもしれない」の前に「の／ん」が付くかどうかについて、少し練習をしてみましょう。次のaとbのどちらか、より自然なほうを選んでください。

【問題2】

- この本を読んでください。いろいろなことが (a.わかるでしょう b.わかるんでしょう)。
- もし敬語がわかれば、目上の人と話すのも簡単に (a.なるかもしれません b.なるのかもしれませんが)。
- 彼は失敗を経験したから、人の気持ちがわかるように (a.なったでしょう b.なったのでしょうか)。

答えは1-a、2-a、3-bになります。

1は「本を読むと、いろいろなことがわかる」、2は「敬語がわかると、目上の人と話すのが簡単になる」という、単なる因果関係 (原因と結果) を述べているので「の／ん」は不要です。一方、3は、「失敗を経験した」という事情があったから「人の気持ちがわかるようになった」、ということを経験し、理解し、納得しているので「の／ん」が必要になります。

「のだ／んだ」は、申し出たり、許可を求めるときに「～んですが」、「～のんですが」の形で前置きとして用いられます。

(8) ちょっとお話があるんですが、今よろしいですか。

(9) テレビの音が大きいのですが、音を小さくしていただけませんか。

(10) 午後銀行へ行きたいんですが、かまいませんか。

(8) ~ (10) は「のだ／んだ」を用いて丁寧に事情を説明し、後ろの文で許可を求めるといった形をとっていますが、これも「のだ／んだ」が持つ「事情説明」ということから説明できます。

このコーナーの担当者：市川保子 (日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。